

令和 8 年度第 1 回琴浦町総合教育会議

会議の概要

日 時	令和 8 年 8 月 21 日 (金) 15:00～16:30
場 所	琴浦町生涯学習センター
出席委員	福本まり子 町長、村上隆史 副町長、河原裕司 教育長 森田澄恵 委員、黒松悟司 委員、鍛川智恵 委員、吉川公一 委員
説明等のため 出席した者	桑本真由美 教育総務課長、山根利恵 社会教育課長 藤田淳也 人権・同和教育課長 岸田和久 参事兼指導主事、福嶋直美 参事兼指導主事、 住吉康弘 教育総務課長補佐
傍聴人	なし

日 程

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 報告事項
(1) 琴浦町立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について
- 4 協議事項
(1) 琴浦町の教育に対する学校運営協議会委員の意見（中間まとめ）について
- 5 閉 会

会議の要旨

教育総務課長	(開会) 15:00 令和 8 年度第 1 回琴浦町総合教育会議を開会します。
町長 教育長	(町長あいさつ) (教育長あいさつ)
教育総務課長	それでは、報告事項に移ります。 「琴浦町立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画 について」担当より説明をお願いします。
指導主事 教育委員	(資料により説明) 時間外在校時間が、中学校では 45 時間を超える教職員が 3～4 割となっ ています。この主な傾向は分かりますか。
指導主事	部活動と分掌業務が主な内容です。特に大会があると部活動の比重が大 きくなる傾向です。
教育総務課長 参加者	そのほか質問等ございますか。 (特になし)
教育総務課長	今年度の実施状況につきましては、来年度に報告いたします。
教育総務課長	続きまして、協議事項に移ります。

教育総務課長補佐
教育総務課長

教育委員

教育委員

教育委員

教育委員

今年度は、学校運営協議会の委員に対して、急速な少子化の現状を共有しながら、琴浦町の教育について意見を聞いているところです。

「琴浦町の教育に対する学校運営協議会委員の意見（中間まとめ）について」担当より説明をお願いします。

（資料により説明）

学校ごとの実態を踏まえ、率直な意見を出してもらえたらと思っています。

町報の出生数が今月はゼロであったなど現実を感じる中で、地域の皆さんより、学校統合を考えなければならないという声を聞いています。

以西の地区の方からは、住民が半分になったが、地域の頑張りを見てほしいという思いで地域活動が続けていると聞いています。

前回の統合では、新入生が以西小は1人、古布庄小は3人となるという見込みの中、このままではいけないということで統合が進んできた。人口が減るなかで、現状維持は難しいと思います。

運営協議会からの意見は、当然に出てくる意見であると思います。意見には、子どもの視点、教職員の視点、地域の視点とありますが、子どもの視点から考えたときに、少人数でのデメリットの方を考えざるを得ない。教職員の視点からみると、どうしても負担が増えることになります。そうした時に教職員もモチベーションを高く持って頑張れるのかが心配になります。そういった職場は、子どもへのよくない影響を考えてしまいます。地域の視点は、その2点のあとにくるものと考えています。将来的には複式学級を進めていくのではなく、統合はやむを得ないと考えます。

モデルになるのは、岡山市の山南学園と思います。視察に行きましたが、地域の区長から統合の議論が盛り上がり、上手く進んだ事例です。地域の方、町民の方が子どものためにと考えて進めることが重要と思います。

町報をみると人口減少を目の当たりにします。人口減少に伴い、税収も減ることになります。財政状況に見合った形で行政サービスを賢く縮小することが将来への負担軽減となり、学校もそれは逃れられないものと考えます。

人口統計は、ほぼ間違いないものであり、学校の数をどうするかは議論すべき内容です。子どもたちの6年後、9年後をどうしていくのか検討すべき時期に来ています。

一方で、これまで教育大綱にあるように地域で支える学校のため、地域の方が努力されてきたことをないがしろにしないようにすることが必要と思います。

学校は統合していくべきと思っています。我が子のことで給食当番が2週に1回であったのが、毎週になってきました。子ども会にしても、今年は1年生が入ってきませんでした。今後こういったことも増えていくと感じています。PTA、登校班も合併しようかという動きがあります。そういった時期になってきています。

チームスポーツを行うにしても、サッカー部は3人しかいません。倉吉

のチームと合同で行っています。色々考えていかないといけないと思います。前回の統合における意見を汲み取りながら進めないといけないと思いますが、のんびりしている場合でないと考えます。

また、子どもが増える教育をしてほしいという意見がありますが、その部分も努力していく必要があります。いずれ、町に子どもが生まれないといったことがないようにしなければなりません。

町長

学校統合が必要という意見がある中で、望ましい形というのはどう考えますか。

教育委員

義務教育学校には、よい印象を受けます。

教育委員

江府町が義務教育学校となっています。児童生徒数が非常に少なくなっている学校です。9年間の義務教育のゴールが見えるのはひとつメリットです。一方で、6年生が卒業して中学生になるというステップアップが薄まる気がします。

教育委員

岡山市の山南学園の視察では、9年間の教育の中で、子どもたちの人間的な成長面でプラスが大きいと聞きました。統合により校区が広くなったため、スクールバスで送迎していますが、そのルート選定も地域の声を吸い上げて決めるなど、地域の声が統合を進めるシステムとなっていました。

地域との関係、保護者との関係、子どもたちの関係でモデルになる学校と感じました。予算面でも充実しており、立派な設備が整備されていました。

教育長

行政から統合しようと進めたのではなく、地域からの機運が高まった好事例と思っています。義務教育学校なので、小学校の先生が部活動をしたり、中学校の先生が小学校で教えたりといった弾力的な教育課程が組めていました。職員室も一緒にして、意思疎通ができるようにしていた点がよかったと思っています。

一方で、校長先生からは、子どもたちが小学校を卒業して中学校になるという節目が薄まってしまう、成長にあたっての適度な負担感や壁が作れないという声も聞きました。

町長

学校に行けていない子どもは、フリースクールへ通学する割合が増えているのですか。フリースクールから学校に戻る子どもは少ないのでしょうか。

教育長

不登校の児童生徒が鳥取県でも増えています。学校に行かせることが目標ではなく、その子が自立することを国も目標としています。そういった機能や仕組みを考えていく必要があると思います。また、琴浦町は外国籍の子どもに対しての支援が手厚いです。こうした子どもや保護者が琴浦町で安心して学ぶことができるという環境づくりも同時に考えていく必要があると考えています。

教育委員

この4月から小学校にもサポート教室ができ、学校に行けなかった子どもが少しずつ集団の中に入っていけるようになりました。安心できる場所があれば、少しずつ学校に足が向くのではないかと思います。町外のフリースクールに行くのではなく、町内のサポート教室であれば保護者の負担

副町長

も少ないと考えます。

統合がよいのか存続がよいのかという結論は出しにくい。学校運営協議会の意見徴取をしているところですが、どこまでだったら維持できるのかという感覚的な部分も意見を聴いてみてはよいのではと思います。

目指すところは、教育大綱にあるように「ふるさとに誇りをもてる子どもたち」であり、そのための学び舎、教育の質を考えていくことが必要です。納得感という話がありましたが、それが得られやすい議論に持っていけたらと思います。

教育総務課長

現在5校で意見を伺ったところですが、このままではいけないという方向であると考えています。

全校を取りまとめて、学校運営協議会に返していく中で、今のままでは難しい、本当にどうしていくべきか考える時期にきているという認識を共有したいと思っています。

教育委員

学校運営協議会を中学校区単位で集めて、結果を返していくことはどうでしょうか。小グループで話し合いをしてもらい、そこで出た意見を集めることができるのではと考えました。

町長

今後、槻下団地、きらり団地は10年後には親だけの世代になり、一気に高齢化が進みます。学校だけでなく地域はどうなるかという議論になります。それも含めて考えていく必要があります。

先日、鳥取県内の首長の会議にて、琴浦町の課題として公共施設をどうしていくのか結論を出す時期になっていると話しました。学校は減少するにしても、人が集まるよう考えていかなければいけません。

教育長

学校だけでなく、社会教育施設もあります。以西地区、安田地区では、旧校舎の1階を公民館として整備し、夏休みの勉強会など子どもの居場所づくりに取り組んでいます。地域から子どもの声が聞こえなくなるという心配がありましたが、ボランティア活動で中学生が地域の行事に積極的に参加しています。これは、琴浦町の強みであると思います。9地区に公民館があつて、子どもたちが足を運んでいる姿があります。今後も地域の活動を応援していきたいと思います。

教育総務課長

過去の統合では、子どもの声がなくなるという意見がありましたが、子どもたちが公民館での活動などに参加するようになったという声もありました。また、実際に統合となれば施設をどうするかといった問題もでてきます。

教育委員

町内の学校は、老朽化している施設が多いことも課題です。

町長

体育館の空調整備も進めていきたいが、財政的な問題もあります。

教育長

プールも毎年修繕を行っています。プールの維持も大きな課題です。

教育委員

山南学園は、新しい校舎で関係者の盛り上がりがあったと聞いています。

教育長

町民の皆さんは、漠然と危機感を持っているとしても、現実問題としての課題認識がまだできていない状況だと思います。今年度は、この機運を醸成していくところまで持っていきたいと考えています。学校運営協議会は、教職員と協働して学校運営していく立場であり、はじめに協議会からの意

見を聞いているところです。次年度は、受益者である小中学校の保護者、こども園保護者に意見を聞いていくことを考えています。

また、財政的な部分や全体的な施設管理は、町長部局と連携して進めていく必要があります。今後、方向性が決まりましたら、視察等も考えていきます。

教育総務課長

学校のあり方を考える時期にきているという機運を醸成していくことを、令和8年度の目標とします。人口戦略室、議会とも連携しながら進めていきます。

町長

このような意見交換を年に1回だけではなく、複数回できたらと思っています。

教育長

令和9年度の取組についての話し合いを、年度内に行いたいと思います。

教育総務課長

以上で総合教育会議を閉会します。ありがとうございました。

(閉会) 16:30